

## 令和4年度 第3学期始業式式辞

新年あけましておめでとうございます。

皆さんそれぞれが、冬休みを有意義に過ごし、新たな決意や希望をもって新年を迎えたことと思います。令和5年、2023年が皆さんにとって、実り多い、素晴らしい年であることをお祈りします。

年末年始の休みを終え、全国的に新型コロナウイルス感染症の感染が拡大しています。ここ数日間をみても新規感染者数が過去最多を更新している県が増えています。

そうした中、3学期もあらためて緊張感をもって、マスク着用の徹底、寒い時期ですが、定期的な換気もきっちり行うなど、これまでどおりの感染対策を確実に行ってください。そして、日々の授業はもちろんのこと、予定されている各行事も無事に実施できるよう、皆さん一人一人の自覚ある行動をお願いしておきます。

さて、昨日、1月9日は「成人の日」で祝日でした。

今年度の1学期始業式でも話をしましたが、令和4年4月1日に「民法の一部を改正する法律」が施行され、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられました。新たな法律が施行された後、初めての「成人の日」だったのです。

高校3年生の皆さん、成人おめでとう。

本来ならば、「成人式」への出席となったはずでしたが、全国の多くの市町村では「成人式」を「二十歳のつどい」や「二十歳を祝う会」などに名称を改め、二十歳の人を対象として式典が開催されたようです。

「成人の日」は、「国民の祝日に関する法律」の第2条で「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」日であると、定義されています。と、言われても高3生の諸君は高校に在学中は「なかなかおとなになったことを自覚する」ことは難しいのではないかと。ただ、成人したという意識をもち、同時に新たな責任が付加されたのだということはしっかりと認識しておいてください。

ところで、プロ棋士の藤井颯太さんもまた「二十歳を祝うつどい」の対象者でした。彼は名古屋大学教育学部附属高校三年生のとき、コロナ禍による二ヶ月の休業期間を経験しました。その期間中に「自分の将棋をじっくり見直すことができた」と語り、高校卒業をまえに退学をして将棋に専念する道を選んだのです。現在は将棋界の8大タイトルのうち五冠を獲得し、この連休中の8・

9日の両日は羽生善治九段の挑戦を受ける形で、タイトルをもつ王将戦七番勝負の第一戦（第一局）に臨みました。会場は静岡県掛川城の二の丸茶室。掛川城は今年の大河ドラマ「どうする家康」が今川氏真から奪った城として有名です。羽生九段が打ち立てた数々の最年少記録を塗り替えてきた藤井棋士との戦いは、将棋ファンからは「黄金カード」「夢の対戦」とも言われ、注目されています。羽生九段は、将棋界史上初の「永世七冠」を達成したことにより、2018年に国民栄誉賞を受賞されている、将棋界のレジェンド的存在です。

王将戦第一戦目の結果は、藤井さんが勝利しました。彼は対局後には、勝っても負けても、誰よりも長く深々とお辞儀をします。昨日もそうでした。戦いのあとの感想として「こちらが予想していない手を指されることも多く、自分にはないものを持たれていると改めて感じた。長考した場面で見通しが立たないことが多かったので、その辺りの判断力を上げなければならない」と反省し、第二戦（第二局）に向けて「内容を良くしていけるよう頑張る」と語っていました。

私は将棋ファンではありませんが、彼を応援したくなるのは「いつでも礼儀正しく、謙虚に振る舞っている」ところです。

一方、プロ野球界では先日、3月に開幕するWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）に向けた「侍ジャパン」のメンバーの一部（12名）を栗山監督が発表しました。その記者発表に米大リーグ、エンジェルスの大谷翔平選手も同席をし、「勝ちにこだわりたい」とWBCへの意気込みを語っていました。記者からの「大谷選手に憧れる若手選手も多くチームメートになる」という質問に対し、「とりあえず話すことを大切に」とコミュニケーションの重要性を語り、「最初は全員に敬語から入りたいと思います」と話していました。

私は大谷選手と藤井棋士には共通点があると感じています。「常に礼儀正しく、謙虚である」ということです。けっして意識して振る舞っているのではなく、自然体なのです。また、ここ一番の大勝負のときに、内心では緊張しているはずですが、どんなときも動揺や緊張を自分のなかで乗り越えていることに感心します。

十数年前、オーストリア出身の経営学者のピーター・F・ドラッカーの「マネジメント」という著書が日本でブームとなりました。その中では、「マネジャー（監督、管理人）に必要な資質は一つある。それは才能ではなく、真摯さ（integrity）である。」と述べています。私自身も大いに共感するところがありました。「真摯さ」とは、「一貫した正直さ、誠実さ、向上心があること」と解釈でき、そのなかには「他者からの話を聞くことができる素直な態度、謙虚

な姿勢」も含まれています。藤井棋士や大谷選手は、当然のことながら見事に自分自身をマネジメントできています。

中学生であっても、高校生であっても自分の人生・日々の生活を管理する（マネジメントする）のは自分自身です。そう考えると、すべての人に必要な資質の一つが「真摯さ」だと言えるのかもしれませんが。

新たな年を迎え、奈良学園の生徒一人一人が、自分自身の生活をしっかりとマネジメントできているかを自己点検し、真摯さをもって毎日を過ごしてくれることを期待します。

高校3年生の皆さんは、奈良学園での授業をすでに終えて、今は大学入学共通テストに向けて、最後の追い込みをかけているところだと思います。とにかく体調に気をつけて頑張ってください。続きは、この後の激励会で話をします。

最後に、今年はいざなぎ年。心身ともに健康で、自己実現に向けての飛躍の年にしてほしいと思っています。ただ、そのためには飛躍するためのエネルギーが必要です。日頃から少しずつの力を蓄積し、ここぞという時の飛躍を期待して、私の話を終わります。

以上